

岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対するパブリックコメントの結果

No.	ご意見内容	市の考え
1	<p>T P Pに対抗する為の素人的考察（主要農産物外の積極的な取り組みについて）</p> <p>○地産地消（産直）はマンネリ化しているため、女性の力を活用した対策が必要。</p> <p>①新しい野菜の研究、開発</p> <p>②新市場の開拓、拡大</p> <p>③料理（レシピ）の研究、普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作って育てる人（ハード面）→男性</li> <li>・消費者に届ける人（ソフト面）→女性</li> </ul> <p>○従来の産品はそのまま継続しつつ、次世代への産品を育成（新しい野菜にはどんな物があるか、岩沼に適した野菜は何か、従事者の世代交代を考えつつ）</p> <p>○生産者、販売者、消費者にワクワク感が必要。</p> <p>○販売所に「新しい野菜コーナー」（苦くない子どもピーマンなど）及びレシピの紹介の設置（共同コーナー）。</p> <p>○研究会の立ち上げ</p> <p>（市役所、サポートセンター、事業者（生産者・販売者）、J A（婦人部など）、その他で構成し、情報交換、親睦、交流会→ウーマンパワー、ファッション性を取り入れる）</p>	<p>総合戦略における農業については、「強い農業づくり」に取り組む中で、農地の大規模化や集約化、経営の効率化等を図り、安定した農業の経営基盤づくりを推進することとしております。「強い農業づくり」を進めるに当たり、女性の力の活用などご提案いただいたことについても、今後の展開により検討が必要になると考えております。</p>

2	<p>岩沼市 まち</p> <p>宗教宗派を問うことない市民霊園の増設と分譲を企画し岩沼市民以外の人たちにも利用できる場所を造る</p>	<p>具体的な施策として市民墓地の整備は考えておりません。しかしながら、墓地需要、社会情勢の変化や市民ニーズの高まりなどについては、今後、状況把握に努めたいと考えております。</p>
3	<p>岩沼市 ひと</p> <p>新火葬場管理は市営とするも市民霊園の墓地（芝、樹木葬、合同葬など）管理は第3セクターまたは NPO 法人などに委託し障害者等の新しい職場として管理・運営を行うよう調整する</p>	<p>市民墓地の整備に対する市の考えは上記のとおりです。</p> <p>なお、障害者等の働く場としては、ご提案のありましたものに限らず、様々な場において就業機会の拡大に取り組んでまいりたいと考えております。</p>
4	<p>岩沼市 しごと</p> <p>上記管理・運営の他にも市内の神社・教会・寺・関係との連携や墓石業者・建設業者へのしごと参加を積極的に呼びかけ、もって総合的な地方創生に関与できる政策企画を考案していただきたく提言致します。</p>	<p>市民墓地の整備に対する市の考えは上記のとおりです。</p> <p>そのため、ご提案の内容に対して、市が積極的に働きかけを行うことは難しいと考えております。</p>
5	<p>総合戦略の位置づけについて (No. 5、6)</p> <p>本戦略を先に策定した「いわぬま未来構想 (26年～35年)」の具現化を図るためのリーディングプロジェクトとして位置づけるとしているが、それであるならば未来構想計画がベースの計画、上位計画であり、国が求めている創生・創造・クリエート・オリジナルの意図が見えてこない。</p>	<p>地方創生に係る国の支援制度の展開等を踏まえ、今後も引き続き具体的な取組について検討を行ってまいりたいと考えております。</p>
6	<p>リーディングプロジェクトの言葉を使っているが具体的に何を意味するのか、その性格、格付けが理解できない。</p>	<p>総合戦略に記載している各種事業については、いわぬま未来構想の実現に向けて重点的に実行してまいりたいと考えております。</p>
7	<p>政策目標の設定と政策検証の枠組みについて (No. 7、8)</p>	<p>共創は、「市民ニーズや地域の抱える課題が多様化・複雑化</p>

	「共創」の字句を使っているが日本語として通用していないのでは、意味するもの、概念がわからない。平易な言葉を使うべきである。	し、行政だけでは対応が難しくなっていることから、住民や企業と対話を通じて目標を共有し、それぞれの持つ知識やノウハウを活かして、まちを共に創りあげていくこと」を意味しており、その内容を用語解説に記載することといたしました。
8	実現すべき成果に係る数値目標と具体的な施策、事業を記述してあるが、 ・創設事業はオリジナルなるものが無い。「創る」という意気込みが感じられない。 ・KPI・PDCAの注釈が必要である	地方創生に係る国の支援制度の展開等を踏まえ、今後も引き続き具体的な取組について検討を行ってまいりたいと考えております。 なお、KPIやPDCAなど、分かりにくい用語については解説を掲載することといたしました。
9	戦略のフォローアップについて 岩沼市がこれまで行ってきた未来構想等既存の事業は総合戦略との調整とあるが中身が不明確であり、岩沼市の地方創生と推進するとあるが、お役所言葉の領域を脱しきらず、前例、慣例に従ってを強く感じる	ご意見を踏まえ、「これまで進めてきた計画や取組等のうち、総合戦略との関連について整理を行い、地方創生に資すると考えられる事業に対して、今後、重点的に取り組みます。」と記載を修正しました。
10	全体を通じて 少子化・人口減少等の人口動態・見通し等を含めて多くのページがあり、当然これらの動向に基づいた総合戦略であると理解するが、将来の人口動態でも最も懸念される高齢化の進展とそれに伴う社会現象の変化に対する記述がない。 私見 ・地域包括システムの充実・促進を図るため「モデル特区」の創設 ・介護ボランティアの養成・制度の創設	人口ビジョンにおきまして、幼年人口の減少と老年人口の増加が人口オーナス（人口構成の変化が経済にとってマイナスに作用する状態）をもたらすことや、高齢化の進展が地域コミュニティ、医療・福祉などに与える影響を記載しております。 また、第6期岩沼市介護保険事業計画において、現在、「地域包括ケアシステム」の構築等に向け、多様なサービスを日常生活圏域で展開できるよう進めております。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅老人ホームの創設（老人ホームと同じように対応できる）</li> <li>・医療・介護等の総合プランを作る「ライフサポートアドバイザー」の創設</li> <li>・シニアプラザ夢プラン</li> </ul>	
11	<p>まちづくりについて</p> <p>共創のまちづくりをうたっているがそのイメージがわからない、理解できない。</p> <p>当然地域コミュニティの推進であるものと思われが、コミュニケーションは人間社会を成り立たせる根本的な条件であり、それが失われることは、社会の劣化や、崩壊を意味し、「iあるまち」の基本的なテーマである</p> <p>そのための施策（私見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向う三軒隣の「まちづくり」</li> <li>・コミュニケーション農園の創設（生活農業）</li> <li>・人ある絆日本一の「まちづくり」</li> <li>・縁側ヒマつぶしの「まちづくり」</li> <li>・コミュニケーション公園の創設</li> </ul>	<p>障害者や高齢者、年代に関わらず交流ができる場をつくりあげ、地域の課題をそれぞれが助け合う拠点づくりに取り組みたいと考えております。具体的な内容を現在検討しているところでございますので、ご提案いただいた施策についても参考にしたいと考えております。</p>
12	<p>仙台空港等を活かした産業振興</p> <p>立地環境を活かして</p> <p>私見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港周辺地域に仙台市にある「中央卸売市場」の移転誘致</li> </ul>	<p>仙台空港等を活かした産業振興に関する提案につきましては、今後の取組の中で参考とさせていただきます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界、日本の「道の駅」を設置</li> </ul>	
13	<p>地方創生の推進について</p> <p>市議会と連携を図るとあるが、議会は首長と対等な立場にあり、車の両輪とも言われるが、一定の緊張関係が欠かせないものである。</p> <p>行政施策文書に議会と連携を図る字句があるのはいかがなものか。</p>	<p>これまで総合戦略の策定に当たっては、市議会に説明を行った上で進めてまいりました。今後、地方創生の推進に当たって、市議会における予算の審議等を踏まえて、総合戦略を実行していくこととしており、総合戦略の記述もそのように改めました。</p>
14	<p>本計画「まち・ひと・しごと創生」のような「地方創生ビジネス」の計画・実施・それらを成功に導くには、鍵を握る者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨソ者…岡目八目（当事者より局外者のほうがかえって状況判断ができる。しがらみがない）</li> <li>・若者…柔軟な発想（前例、慣習にこだわらない）</li> <li>・バカ者…発想が豊か。仕掛人。オダツモツコ。「創る」には奇想天外なアイデアが必要である</li> </ul> <p>今までの行政計画に無かった「創る」の文言がメインテーマの戦略づくりには、これらの「三者」が必要である。</p> <p>地方版総合戦略の策定状況は、全国で766市町村、全体の44%である。</p> <p>宮城県に於いても県内35市町村のうちたった8市町村である。まだ間に合う。是非これら「三者」の「バカ知恵」を活用した他市町村に無い「創造性」のある戦略計画を策定してもらいたい。</p>	<p>地方創生を進めるに当たって、市は公益社団法人青年海外協力協会と「まち・ひと・しごと創生に関する協定」を締結しており、青年海外協力隊として海外で培った経験をもった人材を市のまちづくりに参加していただきたいと考えております。</p> <p>また、今後とも、様々な方々と対話をしながらまちづくりを進めてまいります。</p>